



パナソニック ファン生産100万台達成 「住宅の換気扇普及を」

パナソニック・マニユフ
アクチャリング・インドネ
シア（PMI）社は五日、
扇風機と換気扇を合わせた
「ファン」の国内生産が一
千万台を超えたと発表、日
本でパナソニックの環境シ
ステム分野を担当し、ファ
ン部門を統轄するパナソニ
ック・デコシステムズ社の
伊藤清又社長を招き、東シ

ファン生産の従業員
と記念撮影する伊藤
社長（中列右から4
人目）ら

ヤカルタ・ガンダリアのP
MI社本社工場で記念式典
を行った。

PMI社の前身であるナ
シヨナル・ゴベル社がフ
ァン生産を開始したのは一
九七一年。当初は十六人の
従業員でスタートし、生産
台数は年一万五千二百五十
三台だったが、昨年は年間
生産が約七十万台となっ
た。近年は生産規模が拡大
しているが、伊藤社長は、
快適な住環境の実現に向け
て室内空気質（IAQ）へ
の関心が高まる日本の市場

と比べ、インドネシアの市
場規模は十分の一ほどと指
摘。「次は三年から五年で
二千万台を達成し、インド
ネシアの発展のスピードを
上げていきたい」と語った。
また、インドネシアでも室
内の換気の必要性を呼び掛
けていくとともに、扇風機
についても冷房と併用する
ことで体感温度が三度前後
下がり、電力消費量も三
〇％削減することができる
として、扇風機の効果的な
使用をアピールしていく方
針を示した。

PMI社ファン部門の鈴
木越夫COO（最高執行責
任者）によると、パナソニ
ックの換気扇の国内シェア
は、同工場で生産するKD
Kブランドと合わせると九
〇％以上に達している。し
かし、住宅での換気扇普及
はまだまだ進んでいないと
して、今後も需要を伸ばす
ための取り組みを強化する
必要があるとしている。

パナソニック・エコシス
テムズ社は、空気のほか、
水や土壌の浄化事業なども
行っており、環境エンジニア
リング事業が売上の四
〇％を占める。七日までジ
ヤカルタで開かれているエ
コプロダクツ国際展でも、
人造鉱物繊維のロックウー
ルを用いた脱臭装置と通気
堆肥舎方式を組み合わせた
た、ロックウール脱臭シス

テムを紹介。低ランニング
コストでメンテナンスも最
小限に抑えただけでなく、
脱臭時の余剰水も循環活用
し、排水による土壌汚染も
防止するなど、地球環境に
やさしい方式として、販売
を進めている。

（上野太郎、写真も）

